



愛知県における自動運転実装の取組

愛知県経済産業局次世代産業室





次世代産業の振興

- ・自動車産業の振興
- ・新しいビジネスの創出
- ・モビリティDXの推進



地域諸課題の解決

- ・高齢者等の移動支援
- ・交通不便地における移動手段の確保
- ・交通事故の減少

愛知県の自動運転の取組

愛知県による先進的な実証実験を実施するとともに、「あいち自動運転推進コンソーシアム」において市町村の実証実験を支援するなど、自動車産業分野の新技术開発を促進

2016～2020年度

2021～2024年度

テーマ

自動運転技術の向上

交通事業者等が実運行で再現可能な
ビジネスモデルの構築

エリア

県内20市町
(名古屋市、豊橋市、豊田市、刈谷市等)

- ・ショーケース(中部国際空港及び
周辺エリア)
- ・集客施設(愛・地球博記念公園)
- ・都心(名古屋市内)

車両



バン型車両
【ティアフォー】



小型バス車両(常滑市)
【先進モビリティ】



セダン型車両(名古屋市)
【モービルアイ(イスラエル)】

愛知県の自動運転の取組

- 自動運転を活用した新モビリティサービスの普及促進を図るため、名古屋市内で定期運行を開始するほか、中部国際空港島及び周辺地域や、愛・地球博記念公園において実証実験を実施。
- あいち自動運転推進コンソーシアムを通じ、県内各市町村の実証事業を支援し、実装に繋げる。

愛知県の運行・実証事業

【概要】

- ◆ 交通量の多い都市部における定期運行の実施(名古屋市内)

名古屋駅
付近

スタートアップ支援拠点
STATION|Ai



- ◆ 中型バス車両による高速道路の走行検証及びコミュニティバスをイメージした自動運転サービスの検証(常滑市内)



- ◆ 多数の歩行者が行き交う場所での歩車共存の検証(愛・地球博記念公園)

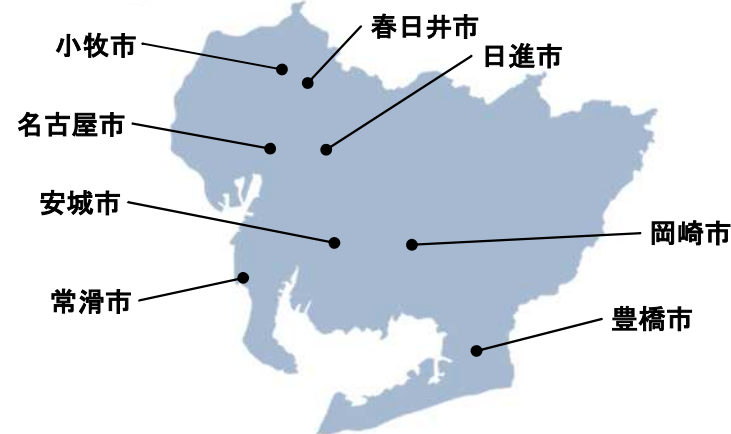


県内市町村の実証事業

【概要】

地域の移動課題に応じた自動運転の実装に向け、2024年度は県内8市が国交省補助金を活用し実証。(全国最多の採択件数)

【実施地域】



実証支援

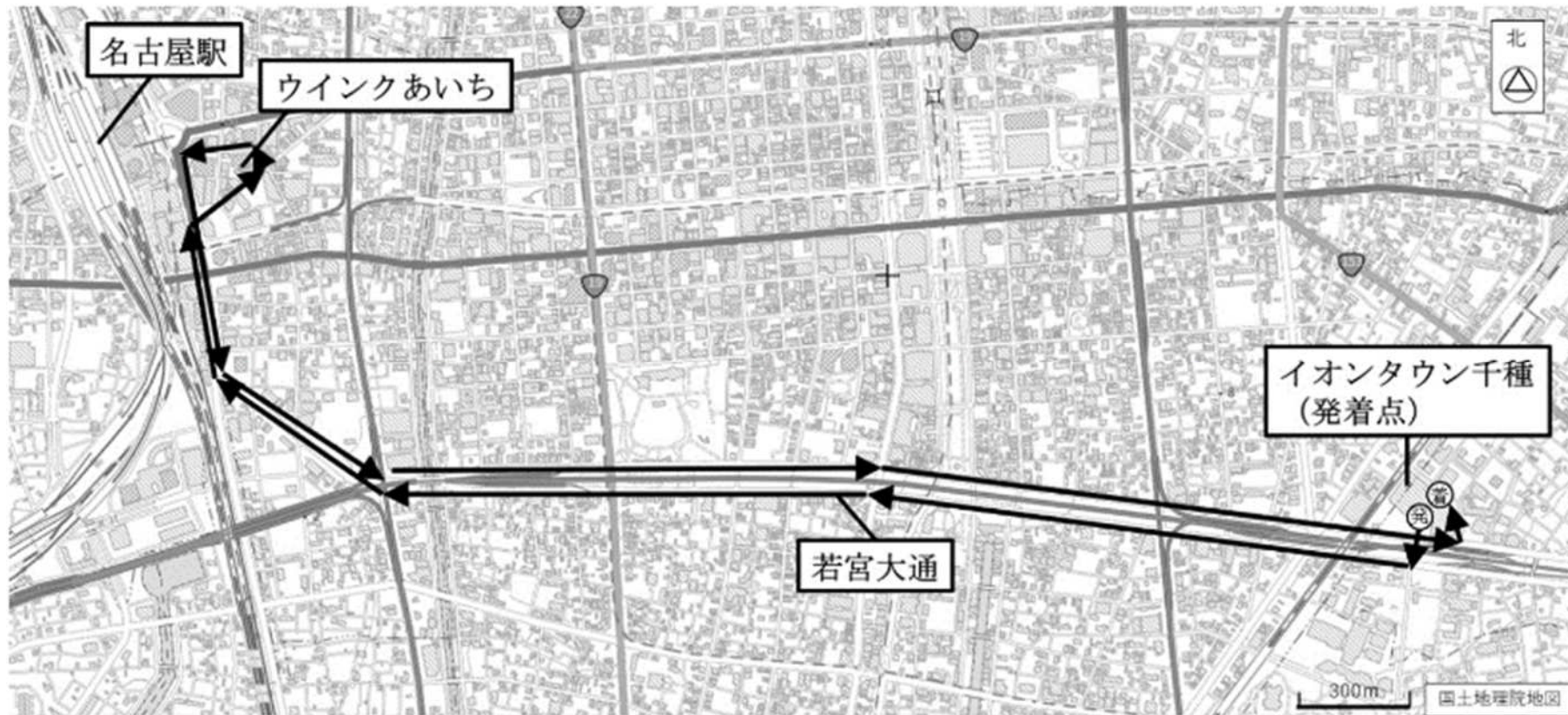
あいち自動運転推進コンソーシアム
(愛知県が運営)

会員: **149** (自治体、企業、大学、関係団体、学識者)

自動運転実証実験 名古屋市内 (2023年度)

テーマ：都心の道路環境に対応したスムーズな自動走行

関係者試乗のみ



モービルアイ社実験車両

- ・ **名古屋駅付近**とイオンタウン千種を結ぶ若宮大通を中心としたルート(約**9.2km**)を走行
 - ・ 名古屋市内の**幹線道路**を**周辺**の車速に対応して走行
 - ・ 道路環境の変化を即座に把握し、**停車車両の回避**や**右左折**、**車線変更**を自動で実施
- ⇒交通量の多い都心部での走行は**自治体として全国初**

自動運転定期運行 名古屋市内（2024年度）

走行日程：2024年11月7日～2025年3月19日

取組方針

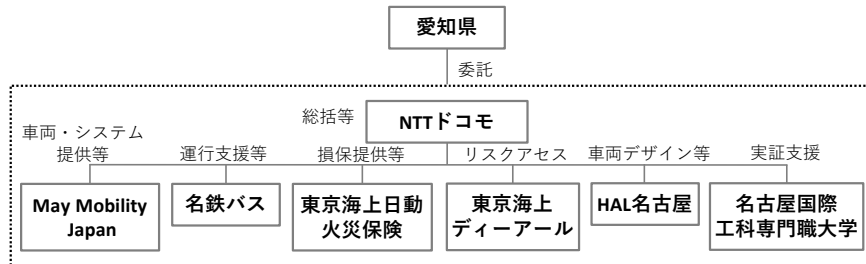
- ・都心の幹線道路に対応した自動運転車の定期運行を実現
- ・長期の運行により露見する課題の抽出と対応策の検証

①テーマ

名古屋駅とSTATION Ai(鶴舞)を自動運転車両で結ぶ
モビリティサービスの定期運行

※利用対象は施設見学者や飲食店等利用者を含む
STATION Ai利用者(無償)

②実施体制



③使用車両

- ・自動運転システム(MayMobility)を搭載する車両(ミニバン「シエナ(トヨタ自動車)」をベースとした車両)
- ・運転席にセーフティドライバー(名鉄バス運転士)が着席(自動運転レベル2)



④通行経路

名古屋駅（スパイラルタワーズ）からSTATION Ai間の幹線道路



⑤取組の特徴

交通量の多い都市部における幹線道路の車速に沿った自動運転車両による定期運行は**全国初**の取組

○交通量の多い名古屋市中心部における先端モビリティによる定期運行の実施

- ・市街地の複雑な道路環境における円滑な走行
- ・定期運行による自動運転の社会的受容性醸成

○将来的なロボットタクシーの県内展開を目指した課題の抽出及び対応策の検証

- ・将来の車内無人を想定したオペレーションの検証
- ・先端モビリティを利用したサービスに対する乗客ニーズの把握

自動運転実証実験 中部国際空港周辺 (2024年度)

走行日程：【りんくうエリア】
2024年8月19日～8月31日
【イオンモール常滑～中部国際空港】
2024年9月12日～9月14日

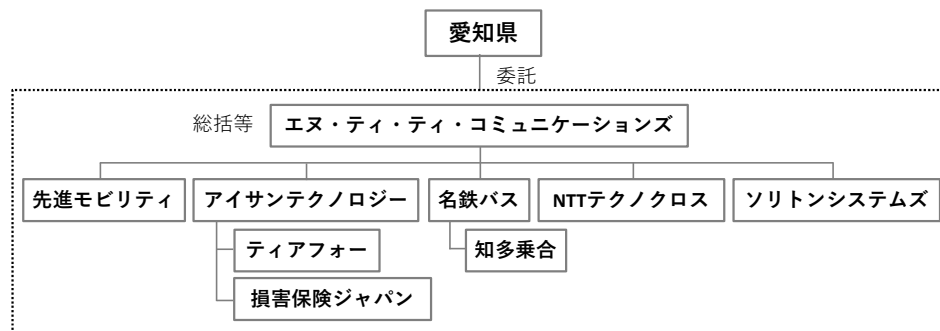
取組方針

- ・コミュニティバスの自動運転化を想定した定期運行
- ・中部国際空港連絡道路を含むルートで輸送力の高い中型バスによる安定走行の検証

①テーマ

- コミュニティバスをイメージした自動運転サービスの検証
- 中型バス車両による高速道路の走行検証

②実施体制



③使用車両

【りんくうエリア】
小型バス
「Minibus(ティアフォー)」



運転席にセーフティドライバー(名鉄バス運転士)が着席
(自動運転レベル2)

【イオンモール常滑～中部国際空港】
中型バス
「エルガミオ(いすゞ)」をベース



④通行経路

- ・ 常滑市りんくうエリア (市街地)



- ・ イオンモール常滑～中部国際空港(中部国際空港連絡道路含む)



⑤取組の特徴

- りんくうエリアにおける一般客向け定期運行
 - ・ 常滑市が運行するコミュニティバスと同等のサービス提供が可能かを検証
 - ・ 夜間及び雨天時の走行の検証
- 自動車専用道路における輸送力の高い中型バスによる安定走行
 - ・ イベント時の輸送を想定した立席や夜間走行の検証
 - ・ 強い横風やETCゲートに対する走行制御の検証

自動運転実証実験 愛・地球博記念公園（2024年度）

走行日程：2024年10月9日～10月25日

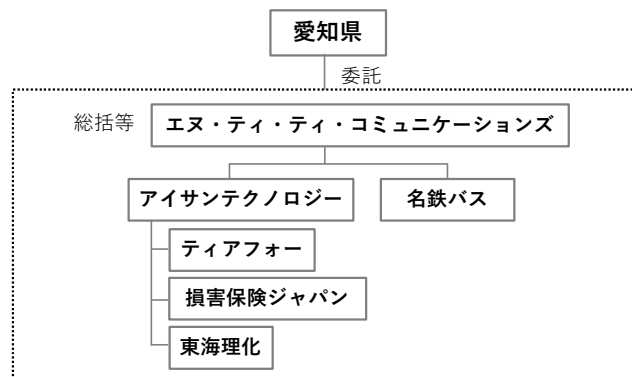
取組方針

・歩車混在空間における運行の検証

①テーマ

多数の歩行者が行き交う場所での歩車共存の検証

②実施体制



③使用車両

- ・大型バス「エルガ(いすゞ)」をベース
- ・運転席にセーフティドライバー(名鉄バス運転士)が着席(自動運転レベル2)



④通行経路

- ・モリコロパーク（愛・地球博記念公園）園内バス東ルート



⑤取組の特徴

- 歩車混在空間における安全走行
 - ・歩行者が多数存在する環境下での自動運転率及び安全性確保の検証
- 往路車両・復路車両との連携走行
 - ・ルート上の限られた地点のみ他のバス車両とのすれ違いが可能であるため、往路車両/復路車両間の正確なオペレーションと近接走行の検証
 - ・将来の無人走行を見据えた乗客の不安低減を目的とする車内と遠隔監視室の双方向コミュニケーションの検証

□ 目的

- (1) 企業・大学等と市町村との**マッチング**
- (2) **社会的受容性**の醸成
- (3) 新たな事業、**ビジネスモデル**を創出
社会実装の実現

□ 会員

149

自治体:37 企業:97 大学:4
関係団体:5 学識者: 6



□ 事業内容

実証実験 **17**件 相談 **80**件(2023年度)

自動運転の
実証実験
支援

産学行政の
マッチング

あいち自動運転
ワンストップ
センター

先進事例の
情報共有

新事業・
ビジネスモデル
創出に向けた
調査・研究

調整段階

電話・窓口
相談受付

実施者・市町村
マッチング

関係機関
調整・手続

実施段階

国等関係者
事前連絡

関係地域
周知・助言